

認知症予防効果があるGABA 「超高水圧」玄米は2倍の含有量

エリーゼや県産業技術センターなど研究報告

島根県飯南町下赤名に工場を構える加工玄米製造・販売の(株)エリーゼ(大阪市中央区)と島根県産業技術センター(松江市北陵町)などが、6千気圧の「超高水圧」をかけた加工玄米の認知症予防への効果を研究しているのに合わせ、同センターの吉野勝美所長や島根大医学部(出雲市塩冶町)の研究者らによる研究報告がこのほど、飯南町であった。



加圧玄米と認知症の関係性について説明する吉野勝美所長(左)=島根県飯南町頓原、町保健福祉センター

吉野所長は、加工玄米を原料玄米と比較した場合、認知症の予防・改善に効果があるとされる成分の「GABA」含有量が約2倍となる一方で、米ぬかが主な原

料となり、認知症をサポートするサプリメントに配合されることが多い「フェルラ酸」含有量は保たれると報告した。続いて、島根大学医学部の橋本道男准教授も加圧玄米と

白米のGABA、フェルラ酸の成分を比較し、加圧玄米の優位性を説明。また同学部の山口修平教授は「物忘れの悪化に気付いたときはかかりつけ医に相談する」「病気の一つと考えること」といった早期対応での留意点を挙げ、ストレスなども認知症の「危険因子」になるとした。

エリーゼは、穀物加工業の(株)かどまさや(和歌山県橋本市)が開発し、特許を持つ技術を基に、商品を開発して出た。2012年に飯南町へ進出した。

ハンドバッグメーカーの(株)バルコス(倉吉市中江、山本敬社長)は、江戸時代から米子、境港両市にまたがる弓ヶ浜半島で生産されてきた「伯州綿」を使ったハンドバッグの製作に乗り出す。特産化へ向け本格的な栽培を始めた境港市の計画が有効な活用策が見いだせず宙に浮いていたところに、バルコスが救いの手をさしのべた格好。都内大手百貨店に販売ブースを構える同社のブランド力を生かし、都会の消費者にアピールする製品開発を進めるといふ。

◎狩野樹理

伯

州綿は、北前船で出荷され、全国へ流通したほか、国の伝統的工芸品に指定される「弓浜緋」の原料として利用される。繊維が太く短いため弾力に富み、保湿度に優れている点の特長で、布団の中綿としての評価も高い。しかし安い輸入品に押し

れ栽培は下火になり、生産量は一時、自家消費程度にまで落ち込んだ。

境港市は、雇用の創出と耕作放棄地の活用に加え、伯州綿を特産品に育てようと、2008年度に試験栽培を開始。09年度からは1万平方メートルの畑で、本格栽培を始めた。

収穫した綿は、県外企業に依頼し、トートバッグやペンケースとして販売したものの、市内で誕生した新生児に配布しているおくるみと100歳を迎えた高齢者に贈るひざ掛けの原材料となるのがほとんどだった。13年度は2万6千平方メートルの畑で約



会場内に設けられた加圧玄米関連商品の展示・試食コーナー。島根県飯南町頓原、町保健福祉センター